



広報

とひがや

12月15日

昭和57年(1982) No.679

編集

越谷市役所企画部広報広聴課

1日・15日
毎月2回発行



もう届きましたか シクラメンのかおり



スロレク講習会に参加して、多くの友人ができました、と川島さん

ついこの間まで仲間たちと自転車暴走族にふんして大林園内を走り回っていた私も、いつの間にか近所の年下の子に「おはさま」とからかわられるようになってしましました。まだ若々しい乙女なのに…。

春は元荒川の土手にお花見に、夏はワガタ虫探しに、秋は芋生大会、冬はおもちつき etc.。春、夏、秋冬、それぞれの風物詩を越谷の街で感じながら、少しずつ大きくなりました。そして今年四月から、私は一社会人として働いています。越谷にはほとんど寝に帰るだけという生活にも、やっと慣れてきた今日このごろです。雨の日なく、冗談まじりで「村からよき来れたな」と冷やかされながらも、毎日しっかり都会の地を踏みしめています。

実際、社会人になって、友人にすると「学生時代と全く代わり映えしないね」の言葉を耳にしますが、会社組織の一員として位置づけられる

越谷市では花の栽培も盛んです。シクラメンもその一つ。クリスマスやお正月用に人気があり、いまが出荷のピーク。温室の中では、赤や白、ピンクのシクラメンが咲き誇っています。出荷の合間をみて近所の人も温室をのぞきにきます。花持ちはとてもよく、日当りのよい場所で水を欠かさなければ、3~4月ごろまで花をつけます。(写真は伊原の押田さん宅)

世代から世代へ

越谷とわたし

108 ◇◇

「越谷とわたし」は、あなたのコーナーです。みなさんの投稿をお待ちしています。字数は900字程度です。

広報広聴課

大林66の9 川島 陽子 (20歳)
かわしま ようこ

からもいられず、自分一人で考えられた責任の義務。時には社会の難点を素直に考させられます。もしもいやおうなしに考させられます。

今年、成人式を終えましたが「二十歳」という数字は、「やったあもう大人だ」という喜びと裏腹に本当に大人になれたのかな」と不安の重みが私たちに襲いかがります。

「本当に大人になれたのかな」と不思議な気が私たちはついがぶさります。本当に大きくなった大人は唯一頼れる柱であり、かつ敵であるような気がします。しかし、誰しも、自分が味方から敵方へ移行する時期を経なくて、また、それが結果的には成長へつながっていくのではないかとおもっています。

この街には、当然のことですが、いろいろな世代の人々が生活している。越谷を形成しています。私たちの知らない歴史を積み上げた前世代、私たちの知らない未来を創造していく、もっと新しい生命をもつ後世代の人々。現在、私は青少年相談員として活動していますが、その活動を通して、また、社会人としての生活を通して、あらゆる世代・個性をお互いに認めあいながら、この街で、この国で、人生を歩むことができたらとてもHAPPYなどとは

市の人口
(昭和57年12月1日現在)
住民基本台帳

前月比

総人口	23万4088人	530人増
男	11万8176人	274人増
女	11万5912人	256人増
世帯数	6万8831世帯	226世帯増

